

**2019年度20歳未満飲酒防止教育 学校コンクール
全国43校の応募の中から
最優秀賞3校・優秀賞10校・特別賞2校を決定！！**

ビール酒造組合(会長代表理事:西田英一郎)は、当組合の活動の一環として、国税庁、文部科学省、厚生労働省など関係省庁および全国養護教諭連絡協議会、全国のPTAなどの団体のご後援をいただき、日本洋酒酒造組合との共催で、全国の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)を対象に「2019年度20歳未満飲酒防止教育 学校コンクール」を2019年7月から11月末日まで実施いたしました。

今年度は、全国の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)から43点の取り組みを応募いただきました。選考委員会(東ちづる審査委員長)による厳正な審査の結果、小学校部門で最優秀賞1校、優秀賞3校、審査員特別賞1校、中学校部門では最優秀賞1校、優秀賞3校、高等学校部門では最優秀賞1校、優秀賞3校、審査員特別賞1校、そして特別支援学校及び学級部門では優秀賞1校を選出いたしました。

2020年1月25日(土)に野村カンファレンスプラザ日本橋(東京)にて、各部門の最優秀賞受賞校を対象とする表彰式を開催いたしました。



野村カンファレンスプラザ日本橋(東京)で行われた表彰式／2020年1月25日(土)

前列(向かって左より): 三宅花音さん、川村慶太郎さん、村上絢美さん、菅沼実生さん、小園妃那さん、杉本李音さん、橋口光希さん、西田翼さん

後列(向かって左より) : 東ちづる審査委員長、中津直子先生、中村まさえ先生、伊藤純一校長先生、實方めぐみ先生、西田英一郎 会長代表理事

ビール酒造組合では、2002 年度から「未成年者飲酒防止ポスター・スローガン・学校賞 募集キャンペーン」を実施し、2017 年度からは、「未成年者飲酒防止教育 学校コンクール」と名称を改め、そして 2019 年度は、「20 歳未満飲酒防止教育 学校コンクール」と題し、学校としての 20 歳未満飲酒防止に向けた取り組みを全国から募集してまいりました。学校・地域で 20 歳未満飲酒が及ぼす健康への弊害などについてのより一層の理解促進を狙いとしております。

表彰式当日は、審査委員長の東ちづるさんおよびビール酒造組合・西田英一郎 会長代表理事より、表彰状・副賞などが授与され、各部門の最優秀賞受賞校の代表者による取り組み発表の後、審査の講評がありました。

当組合では、今後も本コンクールを実施し、20 歳未満飲酒防止活動を定着させていきたいと考えております。

<西田 英一郎 会長代表理事 挨拶>

私どもビール酒造組合が日本洋酒酒造組合と一緒に、この 20 歳未満飲酒防止を目的とする活動を開始してから、本年で 18 年目になります。これもひとえに、国税庁、内閣府、文部科学省、厚生労働省、各学校関係団体、そして東ちづる委員長はじめ熱心に審査をいただきました審査員の皆様、関係各位のご支援ご協力の賜物でございます。心から感謝申し上げたいと思います。

また、本コンクールは地域や学校全体で 20 歳未満の飲酒防止問題の意識を高めると共に、20 歳未満の飲酒が及ぼす健康への障害など理解促進を狙いとしています。また最優秀校の優れた活動を全国に広く紹介させていただくことで、本取り組みの一助となることを願っております。

本年は小学校から 12 校、中学校から 15 校、高等学校から 15 校、特別支援学校及び学級より 1 校の計 43 校の応募をいただきました。いずれも 20 歳未満の飲酒防止問題に真摯に向き合い創意工夫され、熱心に取り組んでいただいたものばかりでした。本当にありがとうございました。本日出席いただきました皆様をはじめ、応募をいただきました皆様の思いが、この活動を広げ、さらに充実して発展していきますことを、心より祈念しております。

<齋藤 隆夫 国税庁 酒税課酒税企画官 挨拶>

受賞された皆様おめでとうございます。本コンクールは全国多数の学校から応募がございました。全国各地の学校、生徒さんに高い関心を持っていただいて、非常にありがたく感じている次第です。最終審査にも参加させていただき、色々拝見する中で、どの学校も豊かな発想力に富んでいて、様々な創意工夫があり、参考になると感じた次第です。最優秀賞に選ばれた皆さまの取り組みは、非常に優秀な内容で、人に自慢できる素晴らしいものだと思います。たいへん価値ある賞だと思っております。

日本の将来を担う若い人を守っていくという意味でも 20 歳未満の飲酒防止は社会全体で取り組んで行かなければならないと考えています。その課題に対して、学校・地域で真摯に向き合っており、理解を深めていただくということは非常に意味のある取り組みです。学校教育の現場において日頃からこの問題にご尽力いただいている先生方に心から敬意を表したいと思います。さらにこの取り組みに傾注していただきますようお願い申し上げます。

国税庁なのに何故お酒なのか？と疑問に思われる方もいるかもしれませんが、国税庁ではお酒の税金を正しく納めていただくというお仕事をさせていただいております。その他、お酒の容器に「お酒は 20 歳になってから」と表示をしたり、販売店には年齢確認の徹底をお願いしています。また、間違ってお酒を手にとってしまうないように、コンビニエンスストアやスーパーなどでは「これはお酒です」と表示をした上で、ジュースなどとは別の区分で陳列するといったルールを設けてい

ます。毎年4月は20歳未満の飲酒防止強調月間と定め、ポスターなどの作成配布をしています。

最後になりますが、このコンクールが今後ますます活発なものとなりますようお祈り申しあげると共に、受賞された皆さまに改めてお祝い申し上げます。本日は本当におめでとうございます。

<東ちづる 審査委員長の講評>

皆さんおめでとうございます。発想力、企画力、クリエイティブ力、実現力、皆さんすごいですね！審査している時もすごいなあと審査員一同感心していました。今回は頭だけで知ることではなく、実際にパッチテストやゴーグルを体験して、他人事ではなく自分事として捉える、学校内だけではなく地域の人たちを巻き込んでいく、そこで大きく広がったと思います。これは繋がる力で、よりいっそう皆さんは、もしかしたら私たち以上に自分の身体を大事にしようと認識されたのではないのでしょうか。そしてこのビール酒造組合は、5社のビールメーカーで構成されていますが、この5社は競合です。企業にとって利益を追求することはとても大切なことですが、それ以上に大切なことは社会貢献です。競合会社と一緒に日本の子供たちの健康を守ろうという取り組みです。

私が小中高の時はアルコールに対する正しい知識は正直持っていませんでした。羽目をはずしたり、失敗や間違いをする人もいました。お酒が背景にある事件や事故があったときに、日本ではお酒が悪者になる風潮がありますが、これはとても残念なことだと思います。例えば刃物を使った事件があります。その場合、刃物そのものが悪いと言われることはありませんが、お酒の場合はあります。お酒は悪いものではありません。お酒を通じてコミュニケーションがぐっと深まり、仕事へ良い影響があったり、友達との関係が深くなったりすることもあります。お酒には、日本の文化や伝統という面もあります。専門家の人たちが日々よりおいしくなるよう考え、研究をしています。その製造されたお酒を運ぶ人たちがいて、お店やレストランなどでサーブする人たちがいて、そのように繋がりながらお酒が広がっています。このように、お酒と上手に付き合っていけるようになると、よいなと思っています。

きっとこれからも友達や有名人がお酒にかかわる失敗や間違い、事件事故を起こすかもしれません。でもその時にその人だけを責めるのではなく、深く考えて欲しいと思います。その人の生まれ育った環境や、アルコールに関する正しい知識を得られなかった環境があるのではないかと、他にも色々あるのではないかと考えてください。その人が社会に復活・再生できるチャンスもあった方がいいと思います。この活動をきっかけに、物事をより深く広く考える大人になって欲しいなと思います。

この取り組みをぜひ来年も続けていただきたいと思います。そして他の学校にも勧めて欲しいです。切磋琢磨するには、競合校がたくさんある方が励みになると思います。よろしく願いいたします。

- ◇主催 : ビール酒造組合 ※1
- ◇共催 : 日本洋酒酒造組合 ※2
- ◇後援 : 内閣府、警察庁、国税庁、文部科学省、厚生労働省、(一社)全国高等学校 PTA 連合会、(公社)日本 PTA 全国協議会、全国養護教諭連絡協議会、全国高等学校長協会、全日本中学校長会、全国連合小学校長会、(公社)アルコール健康医学協会
- ◇協力: 日本教育新聞社、(公財)日本学校保健会

※1ビール酒造組合とは…ビールメーカー5社で構成される特別認可法人です。

※2日本洋酒酒造組合とは…ウイスキー等メーカー81社で構成される特別認可法人です。

「2019 年度 20 歳未満飲酒防止教育 学校コンクール」受賞校一覧

※ 受賞作品はビール酒造組合ホームページ(<http://www.brewers.or.jp/>)からご覧いただけます。

●小学校部門：受賞校一覧

	学校名	都道府県	タイトル
最優秀賞	利根町立文小学校	茨城県	学校保健委員会とタイアップ!! 文小 20 歳未満飲酒防止教育
優秀賞	柳川市立皿垣小学校	福岡県	健康な生活を実践する子どもを育てる飲酒防止教育 ～ライフスキル教育を取り入れた授業づくりを通して～
優秀賞	貝塚市立葛城小学校	大阪府	飲酒防止教育
優秀賞	川口市立差間小学校	埼玉県	児童とともに考える飲酒防止教育
特別賞	名古屋市立神宮寺小学校	愛知県	社会とつながる飲酒防止教育

<最優秀賞>

都道府県	学校名	担当者名
茨城県	利根町立文小学校	中村まさえ

茨城県 利根町立文小学校

2018 年度より保健安全教育活動のさらなる充実を目指し、学校保健委員会におけるテーマに「本校における保健安全の取り組み」を掲げ、児童・保護者・地域の実態やニーズに応じた取り組みを目指している。20 歳未満飲酒防止教育では正しい知識を身につけること、自分の体質を知ること、自分自身を取り巻く情報・状況の理解と、自分のコミュニケーションタイプにあった断り方を身につけることが必要であると考え、教職員との連携・協働を図りながら、児童保健委員会と学校保健委員会のタイアップを企画し、多角的なアプローチを心掛けて指導している。

<取り組み内容>

5～6 年生の学級活動にて、児童保健委員会が中心となりクイズ番組形式で授業をすすめることで、アルコールとの付き合い方などを楽しみながら知識を得ることができた。6 年生では上手な断り方のロールプレイング体験により、様々な人とのかかわりの中から、自分の置かれた状況やコミュニケーションのタイプを意識しながら「上手に断ること」の経験を積んだ。

児童保健委員会と学校保健委員会のタイアップによる公開授業での”上手な断り方伝え隊”の活動や文小祭で取り組みを重ねたことで、保護者との連携を深めると共に、地域への情報発信の拡充を図ることができた。

<発表の様子>



【小学校部門】（左より）中村まさえ先生、村上絢美さん、菅沼実生さん
（利根町立文小学校）

●中学校部門：受賞校一覧

	学校名	都道府県	タイトル
最優秀賞	広島市立段原中学校	広島県	「ストップ！20歳未満飲酒」の取り組み
優秀賞	美唄市立美唄中学校	北海道	なぜ未成年の飲酒がダメなのか！？
優秀賞	飯能市立南高麗中学校	埼玉県	生徒保健給食委員会による 20歳未満飲酒防止運動
優秀賞	新見市立大佐中学校	岡山県	未成年飲酒防止教室
特別賞	該当なし	-	-

<最優秀賞>

都道府県	学校名	担当者名
広島県	広島市立段原中学校	中津直子

広島県 広島市立段原中学校

広島市南区に位置し、生徒数 450 名、16 学級の中規模校である。校区内には広島カープの本拠地マツダ ズーム・ズーム スタジアムがあり、飲食店の数も多く、学校から自転車やバスで 15 分ほどで繁華街に行くことができる交通の便が良い立地である。利便性の良い土地にある学校ゆえに、日常的に大人が飲酒している状態を目にする生徒が多いため、昨年度より 20 歳未満飲酒防止教育を行っている。

<取り組み内容>

ビール酒造組合のホームページにある啓発のビデオを参考に、保健委員が20歳未満の飲酒の害や断り方についてのビデオを制作し、文化祭で上映を行った。劇には教員も登壇し、お酒に対する体質がいろいろあることへの理解を深めた。

文化祭ではアルコールパッチテスト・飲酒状態体験ゴーグル実施の様子をまとめステージで発表すると共に、地域の薬剤師さん・スーパーの店長さん・警察署へのインタビュー結果を模造紙にまとめ、掲示物を制作した。肝機能や骨、脳、生殖機能に影響があること、急性アルコール中毒になりやすいことや、未成年者飲酒禁止法が大正 11 年に制定された法律であると知るなど、さらなる理解促進へと繋げた。

お酒に関する事前アンケートでは、「上手に断れるかわからない」という生徒が多かったが、薬剤師を招いて薬物乱用防止教室を実施し、断り方などを学習したところ、事後アンケートではわからないと答えていた生徒が減り、変化した様子が伺えた。薬物乱用防止教室の内容や事前事後アンケートの結果は、ほけんだよりにまとめ保護者へも配布した。

<発表の様子>



【中学校部門】（左より）中津直子先生、川村慶太郎さん、三宅花音さん
（広島市立段原中学校）

●高等学校部門：受賞校一覧

	学校名	都道府県	タイトル
最優秀賞	鹿児島県立曾於高等学校	鹿児島県	飲まない・飲ませない！なく SO(曾於)！U20 NON 飲酒!! ～焼酎王国・鹿児島県の Responsibility～
優秀賞	東京農業大学第三高等学校	埼玉県	20 歳未満飲酒防止キャンペーン
優秀賞	栃木県立真岡北陵高等学校	栃木県	アルコールの害とその防止
優秀賞	広島市立広島工業高等学校	広島県	ステキな人生をおくるために ～自分のことや身の回りの情報・モノに敏感になろう～
特別賞	千葉県立鎌ヶ谷西高等学校	千葉県	生徒保健委員会活動から学校全体への取り組みへ 本校の 20 歳未満飲酒防止教育の取り組み

<最優秀賞>

都道府県	学校名	担当者名
鹿児島県	鹿児島県立曾於高等学校	實方めぐみ

鹿児島県 鹿児島県立曾於高等学校

鹿児島県は焼酎王国とも言われるほど、全国的に焼酎の消費量が多く、また酒造会社も多い。本校はそのような焼酎消費量 1 位の鹿児島県と 2 位の宮崎県の間位置しており、焼酎の原料となる芋農家出身の生徒や、毎年のように 18 歳で酒造会社へ就職していく卒業生もいることから、ただ訴えるだけでなく、正しい知識の啓発が重要と考え、「飲酒防止教育」に取り組むこととした。

<取り組み内容>

全校生徒へお酒に関するアンケートを実施しその実態に迫った。結果、飲酒経験の理由として「冠婚葬祭」「家族との食事」が多く占めており、生徒だけの飲酒防止教育ではなく、大人への啓発活動も重要と考え、文化祭で発表を行うと共に、「飲酒防止教育」に関するリーフレットを作成し、市民祭にて来訪者へ配布した。

本校では保健委員による歯科活動が活発なため、その活動と組み合わせ「飲酒と歯」の関係について、実際にお酒を購入し pH を測定する実験を行い、お酒の種類による歯への影響の違いについて調べ全校生徒へ情報提供を行った。

また、1 年生を対象に、断り方のロールプレイや、アルコールパッチテスト・飲酒体験ゴーグルを活用した、保健委員による「飲酒防止教育」に関する授業を行った。

＜発表の様子＞



【高等学校部門】（左より）實方めぐみ先生、小園妃那さん、杉本李音さん
（鹿児島県立曾於高等学校）

●特別支援学校(学級)部門：受賞校一覧

	学校名	都道府県	タイトル
最優秀賞	該当なし	-	-
優秀賞	北海道中札内高等養護学校 幕別分校	北海道	飲酒と健康
特別賞	該当なし	-	-

<過去応募数・審査結果について>

	応募総数	中学校			高校		
		ポスター	スローガン	学校賞	ポスター	スローガン	学校賞
(第1回)	3,176	(1,933)	(672)	(-)	(133)	(438)	(-)
(第2回)	6,495	(3,273)	(2,241)	(23)	(385)	(564)	(9)
(第3回)	5,408	(3,702)	(1,131)	(23)	(238)	(310)	(4)
(第4回)	9,981	(4,951)	(2,936)	(32)	(925)	(1,125)	(12)
(第5回)	11,168	(4,388)	(4,084)	(32)	(630)	(2,020)	(14)
(第6回)	8,303	(4,801)	(1,905)	(16)	(588)	(982)	(8)
(第7回)	9,663	(5,132)	(3,084)	(54)	(682)	(700)	(11)
(第8回)	10,932	(4,524)	(3,968)	(38)	(485)	(1,908)	(9)
(第9回)	7,846	(4,403)	(1,519)	(14)	(892)	(1,014)	(4)
(第10回)	7,268	(3,568)	(1,982)	(16)	(816)	(881)	(5)
(第11回)	9,292	(3,859)	(3,109)	(18)	(756)	(1,537)	(8)
(第12回)	6,686	(1,956)	(3,257)	(11)	(587)	(871)	(4)
(第13回)	7,575	(2,038)	(3,052)	(24)	(505)	(1,938)	(17)
(第14回)	8,531	(2,421)	(3,620)	(16)	(842)	(1,625)	(6)
(第15回)	5,794	(750)	(2,795)	(10)	(417)	(1,803)	(16)

	応募総数	小学校部門	中学校部門	高等学校部門	特別支援学校(学級)部門
2017年度	72	11	44	17	
2018年度	45	8	20	16	1

2019年度 20歳未満飲酒防止教育 学校コンクール
[小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)部門]

	応募総数	小学校部門	中学校部門	高等学校部門	特別支援学校(学級)部門
全応募数	43	12	15	15	1
一次審査	-	10	10	10	1

「2019 年度 20 歳未満飲酒防止教育 学校コンクール」応募要項

- ◇名称 : 「2019 年度 20 歳未満飲酒防止教育 学校コンクール」
- ◇募集期間 : 2019 年 7 月～2019 年 11 月 29 日(金)必着
- ◇応募資格 : ●全国の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)
- ◇募集内容 : ●学校での「20 歳未満飲酒防止」に関する取り組みを募集
- ・ビール酒造組合のツール(ゴーグルやパッチテスト)を授業内や文化祭などの学校行事で活用
 - ・ビール酒造組合の教育ツール(ビールすごろくなど)を授業などで活用
 - ・学校で 20 歳未満飲酒防止を説明するツールなどを独自に制作し授業などで活用
 - ・20 歳未満の人の飲酒防止を訴求するポスター作成をクラスや学年単位などで実施
 - ・校内で 20 歳未満の人の飲酒に関するアンケート調査を実施
 - ・保健委員会や学年、クラスの活動で掲示物を制作し、学校中に啓発活動を展開
 - ・地域の警察署や酒店などと連携し、学校で 20 歳未満飲酒防止を考える時間を設ける
 - ・20 歳以上の人から飲酒を勧められた際に、飲酒を断るロールプレイの実施
 - ・その他、20 歳未満飲酒防止に関わる学校での活動
- ◇応募方法 : ●エントリーシートをダウンロードしてご応募ください。
エントリーシートと併せて、活動の様子が分かる資料や写真があればご提供をお願いします。(書式自由 1～3 点)
- ◇応募先 : 〒108-0023 港芝浦郵便局留め
「2019 年度 20 歳未満飲酒防止教育学校コンクール」事務局
※メールでの応募: camp@brewers.or.jp
- ◇報 賞 : 【最優秀賞 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)】
各 1 校 15 万円相当の副賞をカタログ式ギフトよりお選びいただけます。
【優秀賞 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)】
各 3 校 8 万円相当の副賞をカタログ式ギフトよりお選びいただけます。
【審査員特別賞 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)】
各 1 校 3 万円相当の副賞をカタログ式ギフトよりお選びいただけます。
- ◇審査委員 : 共催・後援の各団体と有識者で審査員会(審査委員長: 東 ちづる氏)を構成し、
厳選なる審査の上、入選校を決定します。
- ◇発 表 : 入選校には事務局より直接ご連絡いたします。
また、ビール酒造組合ホームページ上で発表いたします。
- ◇プレゼンテーション・表彰式 : 2020 年 1 月 25 日(土) 東京で開催
- ◇審査委員長: 東 ちづる氏(女優)
1960 年 広島県生まれ。ドラマ、CM、コメンテーターのほか、講演、エッセイ執筆など幅広く活躍。骨髄バンクやドイツ平和村などのボランティア活動を 20 年以上続け、2012 年には一般社団法人「Get in touch」を設立し理事長を務めている。主な著書に「わたしたちを忘れないで～ドイツ平和村より」、エッセイ「らいふ」。
- ◇お問い合わせ先: ビール酒造組合ホームページ : <http://www.brewers.or.jp/>
<過去の受賞作もご覧いただけます。>

◇主催および共催・後援一覧

主催:ビール酒造組合

共催:日本洋酒酒造組合

後援:内閣府、警察庁、国税庁、文部科学省、厚生労働省、

(一社)全国高等学校 PTA 連合会、(公社)日本 PTA 全国協議会、

全国養護教諭連絡協議会、全国高等学校長協会、全日本中学校長会、

全国連合小学校長会、(公社)アルコール健康医学協会

◇協力:日本教育新聞社、(公財)日本学校保健会

<本件に関するお問い合わせ先>

2019 年度 20 歳未満飲酒防止教育 学校コンクール 表彰式 広報事務局(電通 PR 内)

担当:上運天 080-3123-3919 MAIL: tomomi.ueunten@dentsu-pr.co.jp

村上 070-1545-6966 MAIL: tomoko.murakami@dentsu-pr.co.jp